「G7香川・高松情報通信相大臣会合開催記念
K-MIX+利活用推進フェアに関して」
ーおよび本年4月より電子処方箋解禁についてー

香川大学　瀬戸内圏研究センター　特任教授
日本産婦人科医会情報システム委員会委員長
香川県医師会理事
原　量宏

高松サンポート合同庁舎　アイホール

2016. 2. 19

HCIF　第24回事例研究部会
第19回治験IT化部会

これからの遠隔医療のテーマ
―地域包括ケアシステムの構築―

- チーム医療
- 在宅医療
- 訪問看護
- 多職種連携
- 自治体との連携
- 総合診療専門医
- 医療と介護の連携

遠隔医療
電子カルテネットワーク
電子処方箋
介護システムのIT化

香川県　医療福祉、遠隔医療の総合特区
オリーブナース

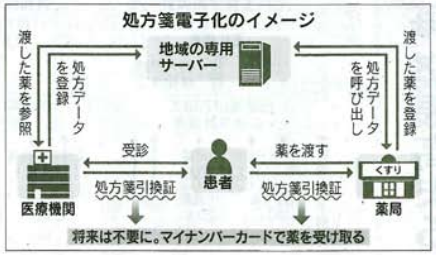
G7香川・高松情報通信大臣会合 （2016年4月29日30日）

日本経済新聞　2016年（平成28年）2月10日（水曜日）

電子処方箋 4月解禁

薬局の事務負担軽く 厚労省

厚生労働省は4月から医師が患者の薬を指示する処方箋の電子化を認める。医師が処方する薬のデータを地域の専用サーバーに送り、薬局がデータを呼び出して患者に薬を出す。薬局が年間7億枚を超える処方箋をパソコンで打ち込んだり、保管したりする手間がなくなる。2020年度以降は全国に広げ、患者がマイナンバーカードだけで薬を受け取れる仕組みを検討する。



厚労省は医療のIT（情報技術）化を議論する10日の医療情報ネットワーク基盤検討会で電子化解禁の案を示す。近く省令を改正して4月に施行する。今のルールでは処方箋を紙で患者に渡す必要がある。4月からは電子データでの処方箋のやりとりを認める。地域ごとに電子化に参加する医療機関と薬局が専用サーバーを通じて処方データをやりとりする。患者が訪れた薬局が処方データや、医師の診察結果やアレルギーの情報を見て最も適した薬を出す。

電子化は希望する市町村や都道府県の単位で始める。地域の医療機関同士が患者の情報を共有している地域医療連携ネットワーク（全国約200カ所）の枠組みを使う。専用サーバーの導入費用は厚労省の基金で出す。運営の費用は電子化に参加する医療機関や薬局が負担する見通しだ。

電子化する地域に住む患者は4月から処方箋の代わりに電子処方箋の識別番号を書いた「電子処方箋引換証」を医師から受け取り、薬局に提出する。個人別の医療番号制度が本格的に導入され、全ての地方自治体で医療情報の共有が進む20年度以降には全国統一のシステムとして処方箋を電子化することを検討する。

患者は紙の処方箋がなくても、マイナンバーカードが1枚あれば全国どこの薬局でも処方薬を受け取れるようになる。スマートフォン（スマホ）で使う電子お薬手帳などで処方内容をチェックすることもできそうだ。

薬局にとってはコスト負担が減る。薬局は使った処方箋を紙のままか、画像データとして取り込んで3年間保管しなくてはならない。処方箋は全国で年間7億枚超。今後はサーバーから呼び出したデータをそのまま保管すれば済むようになる。紙の処方箋を見てパソコンに入力する手間や、打ち間違えるリスクも減る。「保管やデータ入力にかかるコストがなくなれば経営にとってはプラス」（大手薬局）という。

全国で処方箋の電子化が実現すれば、現在は禁じられている処方薬のネット販売も技術的にはできるようになる。診察を受けたあとに薬局で薬を待つ時間がなくなるため、慢性的な病気で同じ薬をもらう患者などにはメリットがありそうだ。

すでに電子処方箋の実証実験をしている大分県別府市など、医療のIT化に積極的な自治体から電子化が進む公算が大きい。ただ、患者が少ない個人経営の薬局などはシステム投資や作業習得の負担感が大きいとみられ、普及には一定の時間がかかりそうだ。

厚労省は市販薬のネット販売を解禁する際に、十分な議論のないまま処方薬を法律で禁止した。処方薬は重い副作用があるという理由だが「医師が診察したうえで処方している薬だからこそ、処方箋があればネットでの販売を認めるべきだ」との声が民間企業からは上がっている。

マイナンバー連携視野

K-MIX から K-MIX＋へ　大幅な機能アップ

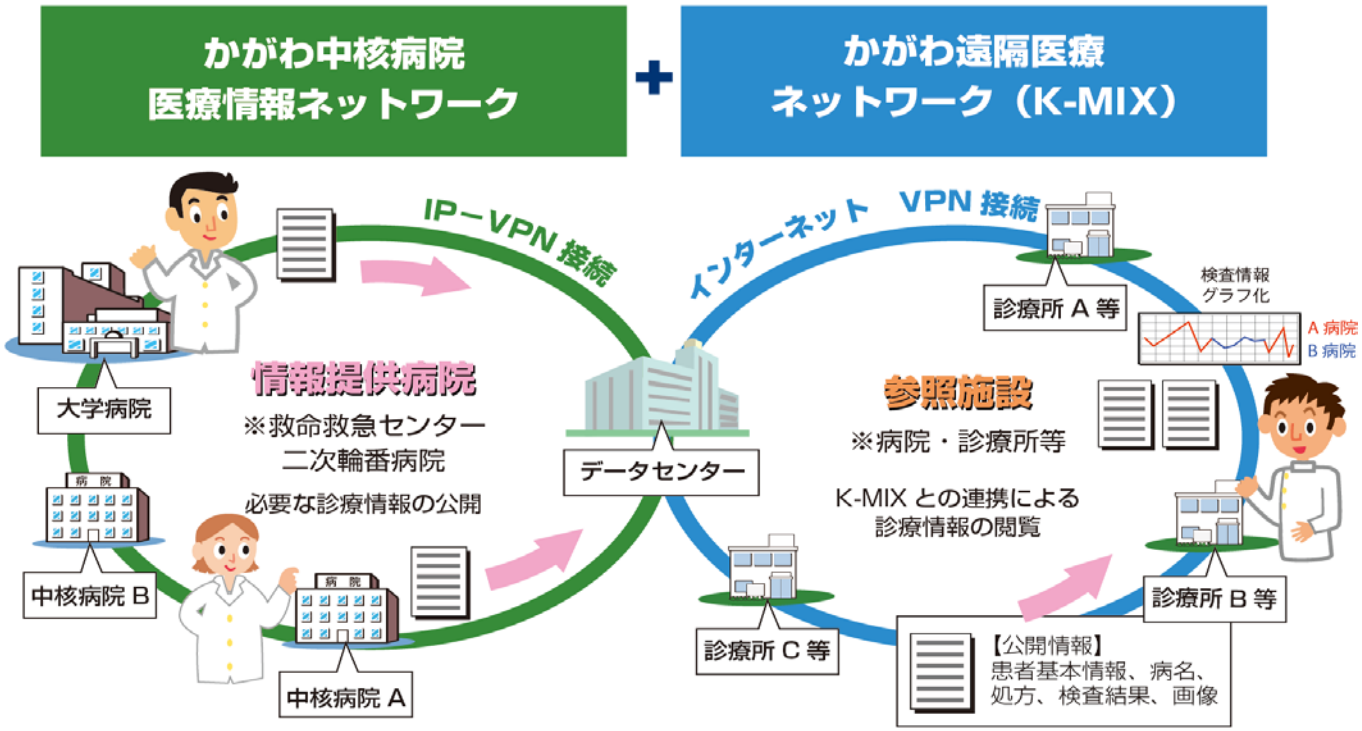
県内の中核病院の診療情報（病名、アレルギー、処方、検査、画像）を提供するネットワークである「かがわ中核病院医療情報ネットワーク」を構築し、「かがわ遠隔医療ネットワーク（K-MIX）」に参加する異なる医療機関において、それらの医療情報を参照可能とすることで、

- 紹介、逆紹介を通じた円滑な連携の促進
- アレルギーや禁忌情報の共有
- 検査等の重複実施、薬剤の重複投与の抑制
- 患者への説明の継続や最新の医療行為の習得

を実現し、地域全体の診療の質の向上を図ることとなりました。

※たとえば異なる中核病院の検査情報を時系列的に連続したグラフにする事が出来ます。

「かがわ中核病院医療情報ネットワーク」と「かがわ遠隔医療ネットワーク（K-MIX）」を総称して「かがわ医療情報ネットワーク：**K-MIX＋　（ケーミックス プラス：Kagawa Medical Information eXchange plus）**」となりました。



情報提供病院

・県立白鳥病院・さぬき市民病院・県立中央病院・高松市民病院・高松赤十字病院・香川県済生会病院・屋島総合病院・栗林病院・KKR 高松病院・香川大学医学部附属病院
・坂出市立病院・回生病院・香川労災病院・滝宮総合病院・三豊総合病院　　計 15 病院

Ｇ７香川・高松情報通信大臣会合の開催について

平成２７年１１月２７日
香川県サミット閣僚会合推進室

会見発言記事

高市総務大臣閣議後記者会見の概要

平成27年7月3日

冒頭発言

皆様、おはようございます。
今朝は、官邸で、宇宙開発戦略本部、閣議、閣僚懇がございました。

【G7情報通信大臣会合(1)】

冒頭に、来年の「伊勢志摩サミット」の関係閣僚会合として、「G7情報通信大臣会合」を開催することとなりましたので、報告させていただきます。
本日の閣議において、内閣官房長官から、「G7情報通信大臣会合」については、「香川県高松市」で開催するとの御発言がございました。
我が国で「G7情報通信大臣会合」を開催するのは、初めてのこととなります。
私としましても、美しい自然に恵まれ、ICTを利用した全県的な遠隔医療ネットワークを導入するなど、情報通信分野の先進的な取組が行われている高松市において「G7情報通信大臣会合」を開催できて、喜ばしいと考えております。
また、このような会合の開催を通じまして、地方創生にも貢献してまいりたいと考えています。
総務省としましては、情報通信大臣会合を含め「伊勢志摩サミット」を成功させるために、関係省庁や自治体とも連携しつつ、全力で取り組んでまいります。

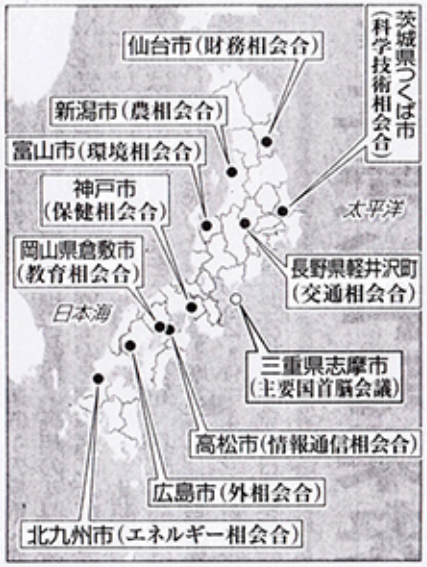
四国新聞
四　國　新　聞　2015年（平成27年）7月4日（土曜日）　第43501号　（日刊）

高松で情報通信相会合

四国初、遠隔医療を評価

伊勢志摩サミット

政府は3日、来年5月の主要国首脳会議（伊勢志摩サミット）に先立つ情報通信相会合を高松市で、保健相会合を神戸市でそれぞれ開くなど、新たに8地域で閣僚会合を開催すると決定した。定例で行われている外務、財務両相の会合に加え、各自治体の希望や地方創生の観点も加味し選定した。四国でサミットの関係閣僚会合が開催されるのは初めて。誘致の成功を受け、会見した浜田知事は「香川だけでなく、四国全体の知名度向上や経済効果も期待できる。地方創生の観点からも意義深い」と述べた。（24面に関連記事）



保健は神戸、交通は軽井沢

このほか、交通相会合（長野県軽井沢町）、科学技術相会合（茨城県つくば市）、農相会合（新潟市）、環境相会合（富山市）、教育相会合（岡山県倉敷市）、エネルギー相会合（北九州市）をそれぞれ開催する。関係閣僚会合は計10会合となり、過去に日本で開かれたサミットでは最多となる。

開催時期については、伊勢志摩サミットに先立つ3～5月中旬を想定。担当府省庁を中心に準備を加速する方針だ。

菅義偉官房長官は記者会見で、閣僚会合の開催日について「関係省庁からしかるべき時期に発表したい」と説明。新たな閣僚会合を追加することには否定的な考えを示した。同時に「日本の地方の良さを見てもらい、世界に発信できたらいい」とも述べた。

8地域の選定で、高松市は情報通信技術を利用した全県的な遠隔医療ネットワーク「K－MIX」の導入が高く評価された。

つくば市は世界最先端の科学技術が集積し、日本の技術力をアピールできる点が決め手になった。新潟市は国家戦略特区として農業改革に取り組んでいることが評価された。軽井沢町は北陸新幹線の開通に伴う交通の利便性向上、富山市は先進的な環境保全に取り組んでいることが決定につながった。

神戸市は阪神大震災からの復興を遂げ、最先端医療が盛んな点が注目された。倉敷市は教育と文化を核とした街づくりを行ってきたことを評価した。北九州市は省エネルギーを含む実証実験の取り組みなどを考慮した。

伊勢志摩サミットは来年5月26、27両日に開かれる。政府は外相会合を広島市で、財務相会合を仙台市でそれぞれ開くと既に発表している。

伊勢志摩サミット／Ｇ７情報通信大臣会合

サミットの概要

○　日、米、英、仏、独、伊、加、露の８か国の首脳並びに欧州理事会議長及び欧州委員会委員長が参加して開催される首脳会議で、2014 年以降はウクライナ情勢を受けてロシア参加停止のためG7で実施
○　国際社会が直面する様々な地球規模の課題について、一つのテーブルを囲みながら自由闊達な意見交換を通じて、コンセンサスの形成等を行うもの
○　これまで日本では、1979 年（東京）、1986 年（東京）、1993 年（東京）、2000 年（沖縄）、2008 年（北海道洞爺湖）の５回開催

Ｇ7情報通信大臣会合

○　2016年5月26日・27日の伊勢志摩サミットに合わせて開かれる関係閣僚会合の一つで、サミットの枠組としては日本で初めての情報通信大臣会合
○　高松市での開催理由として、「美しい自然に恵まれ、ICTを利用した全県的な遠隔医療ネットワークを導入するなど、情報通信分野の先進的な取組みが行われている高松市・・・」（高市総務大臣）との発言
○　日程は、平成28年4月29日（金・祝）・30日（土）の２日間で、かがわ国際会議場及びサンポート周辺の施設を使って開催される。

日	会議内容（予定）
4月28日（木）	（実務者会合）歓迎レセプションなど
4月29日（金）	【閣僚会合１日目】バイ会談、歓迎レセプションなど
4月30日（土）	【閣僚会合２日目】記者会見、エクスカーションなど

○　現在のところ、G7各国及び関連する国際機関（EU、OECD、ITU）などが参加する見込みである。参加人数は、マスメディアを含めて約200人程度。
○　情報通信大臣会合の開催は国（総務省）が主体となって実施し、地元は大臣会合の開催支援や関連事業等を実施することとなっている。

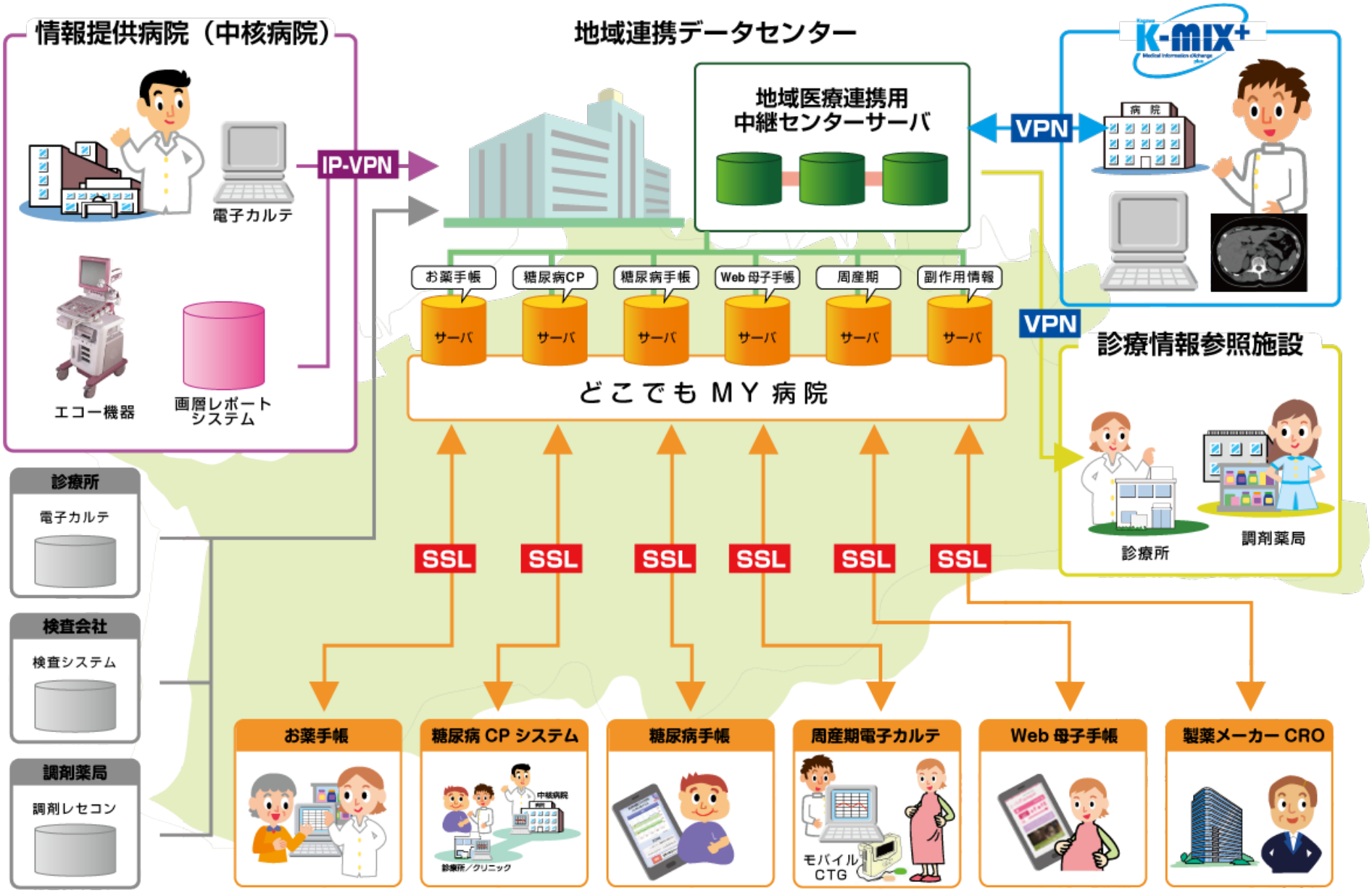
Ｇ７香川・高松情報通信大臣会合の主な関連事業（予定）

香川県が実施する事業	内容	実施時期
ICT見本展（※）	Ｋ－MIXや企業等の展示によるICTの利活用事例の紹介	大臣会合期間中
先端テクノロジーの展示（※）	ロボット、メディアアートなどの先端テクノロジーの体験型展示	大臣会合期間を含む10日間程度
ICTフォーラム（※）	アートとICTをテーマとしたメディアアーティストらの対談	４月
G7学生ICTサミット	サミット参加国出身の学生らによるICTに関するディスカッション	12/12

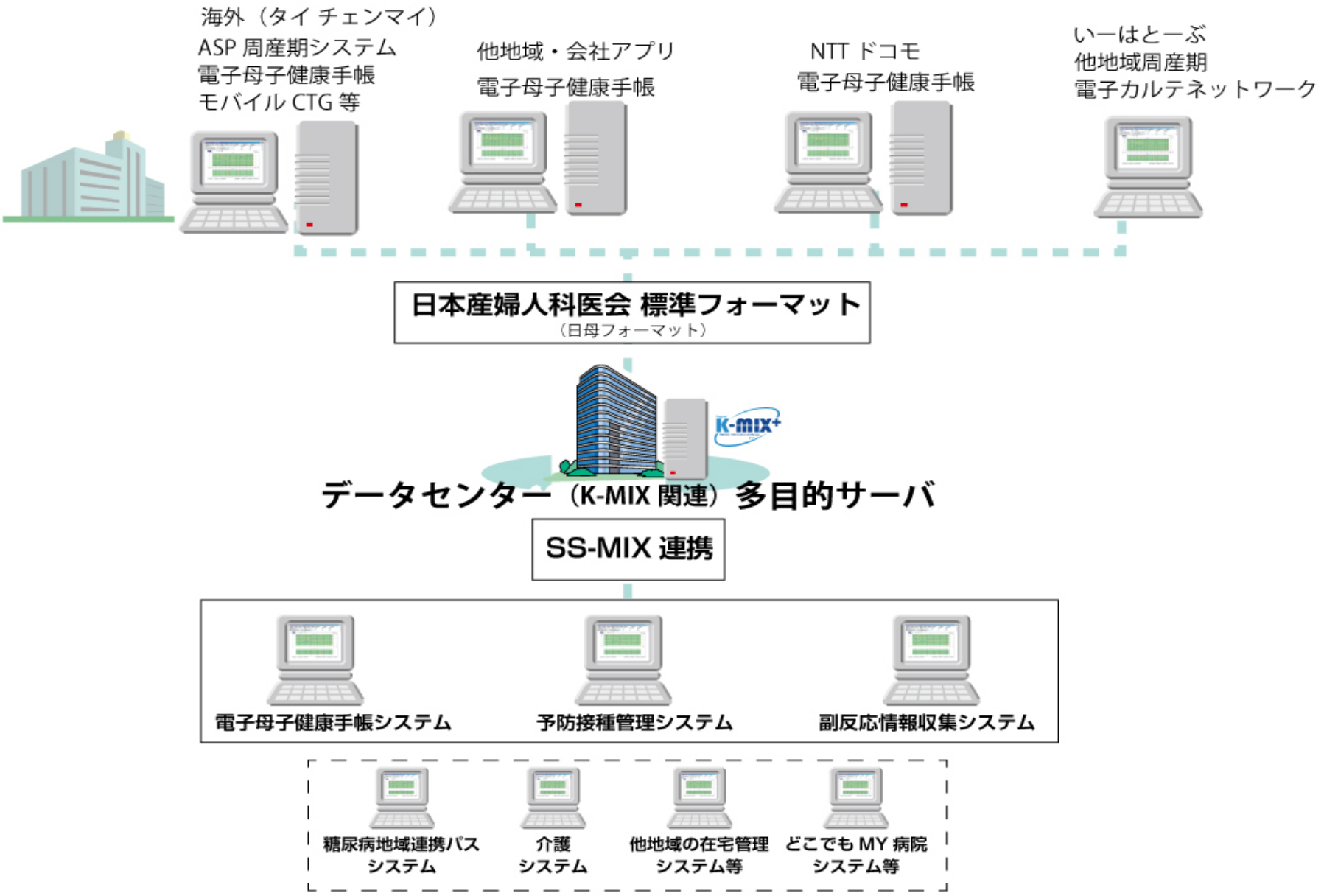
（注）※印の事業については、現在、香川県議会で審議中であり、あくまで予定である。

高松市が実施する事業	内容	実施時期
デジタルサイネージ事業	JR高松駅等にデジタルサイネージを整備	１１月～３月
商店街Wi-Fi整備事業	高松駅周辺（県と共同）、中央商店街でのWi-Fi整備	１１月～３月
多言語翻訳アプリ実証事業	総務省「多言語翻訳アプリ実証事業」に参加したアプリの活用	１１月～３月

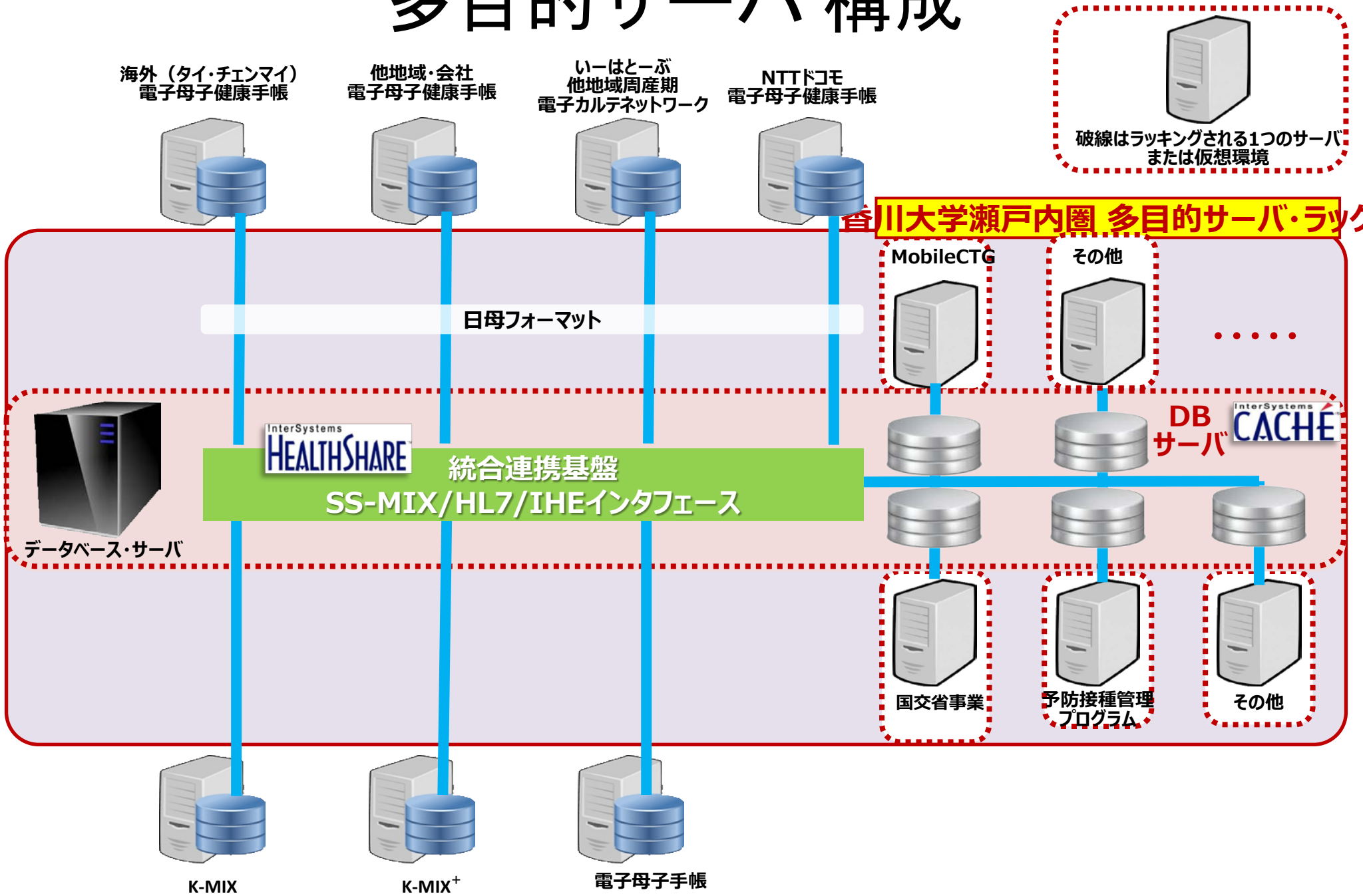
国が検討している事業	内容	実施時期
産学官セミナー	国内外の企業、大学等によるICTをテーマとしたシンポジウム	大臣会合期間中
ICT展示	日本における最先端のICT技術の展示	大臣会合期間中


情報提供病院（中核病院）
電子カルテ
IP-VPN
エコー機器
画層レポートシステム
地域連携データセンター
地域医療連携用
中継センターサーバ
VPN
K-MIX+
病院
VPN
お薬手帳
糖尿病CP
糖尿病手帳
Web 母子手帳
周産期
副作用情報
サーバ
どこでも MY 病院
診療情報参照施設
診療所
調剤薬局
診療所
電子カルテ
検査会社
検査システム
調剤薬局
調剤レセコン
SSL
お薬手帳
糖尿病 CP システム
中核病院
診療所／クリニック
糖尿病手帳
周産期電子カルテ
モバイル CTG
Web 母子手帳
製薬メーカー CRO

新たに稼働させる多目的サーバの利活用（瀬戸内圏研究センター）



多目的サーバ構成


海外（タイ・チェンマイ）
電子母子健康手帳
他地域・会社
電子母子健康手帳
いーはとーぶ
他地域周産期
電子カルテネットワーク
NTTドコモ
電子母子健康手帳
破線はラッキングされる1つのサーバ
または仮想環境
香川大学瀬戸内圏 多目的サーバ・ラック
MobileCTG
その他
日母フォーマット
DB
サーバ
InterSystems
CACHE
InterSystems
HEALTHSHARE
統合連携基盤
SS-MIX/HL7/IHEインタフェース
データベース・サーバ
国交省事業
予防接種管理
プログラム
その他
K-MIX
K-MIX+
電子母子手帳

展示会場（シンボルタワー3階　かがわプラザ）　写真